

- P1 環境学習講座レポート
環境学習 講座案内
- P2 環境学習指導者紹介、ミニ情報
イベント案内



環境学習講演会を開催しました!

日時 平成24年12月2日(日) 13:30~15:00
場所 山口県セミナーパーク 講堂
講演名 海と共に生きる ~震災復興と森は海の恋人運動~
講師 NPO法人森は海の恋人 理事長 畠山 重篤 氏



◆震災後の海への想い

三陸はもともと地震の多い所で、一生の間に2回は津波に遭遇する厳しい所。今回、大津波の被害を受けながら誰も海を恨む気持ちを持っていない。海に愛着を持っていて、今後も海辺で暮らすことを希望している。

◆森は海の恋人運動

良い牡蠣を作るためには、海に流れ込む川が大事で、背景には山があり、流域の環境が大事であることを30年前に気付き、森と川と海を一緒に考えなければいけないと思い、それを人に伝えるために、漁師が山に木を植えることを始めた。「森は海の恋人」というスローガンを掲げ、平成元年より落葉樹を約40種類植えており、植えた木は5~6万本になる。

また、流域の住民が、森と川と海が一つのものという意識を持たなければ川も海もきれいにならないと考え、平成2年より流域の子供達を海に招き体験学習を続けており、参加した子供達は1万人を超える。

子供から親へ伝わり、流域全体の住民達に、森・川・海が繋がっているという意識が芽生え、農家の人達も、農薬とか肥料を考えるようになり、環境保全型農業への切り替えが進み、川や海はだんだん良くなってきた。地元の大川では鮭が6万匹も遡上し、湾には小魚も戻ってきた。水生昆虫の調査では、5~6年前より上流から下流まで同じ昆虫の生息が確認されており、流域全体が良くなっている。山に木を植えたから川や海が良くなるのではなく、海を豊かにするには、流域の人達の心の中に木を植えることが重要。

◆森と海を繋ぐ鉄の役割

取組にはメカニズムの研究やデータの的なものも必要で、植物と鉄分との関係を学んだ。植物は、葉緑素(クロロフィル)を作るのに、鉄の力が必要。

広葉樹等の葉が落ちて腐葉土ができ、土の中で分解されフミン酸が残り、このフミン酸には鉄を溶かす作用があり、鉄が水に溶け出す。もう一つの成分のフルボ酸が、溶け出した鉄を保護し、海まで鉄(フルボ酸鉄)を運び、植物プランクトンに鉄を提供する。森の中で作られたフルボ酸が、植物プランクトンが鉄を利用するのを助けることがわかった。

現代の海は極端な貧鉄であり、海水中の鉄濃度は1L中に1ngしかない。海水の中にはN(窒素)・P(リン)はたくさんあるのに、植物プランクトンが少ない(増えない)海域がある。

日本には、2級河川を含め、大小35,000本の河川があり、そのほとんどにダムがある。ダムにはフルボ酸鉄が溜まっており、これを海に供給すれば海は豊かになる。海まで運ぶ土木技術の開発を進めるべき。水産行政はこれまで魚が獲れなくなると人工的に稚魚を放流していたが、それだけでは海は豊かにならない。

環境学習講演会のご案内

~地域からエネルギーの未来を創るために~

講師 崎田 裕子氏(ジャーナリスト・環境カウンセラー)

日時 平成25年2月3日(日) 13:30~15:00 開場 13:00

場所 山口県セミナーパーク 研修室103

定員 90人(先着順で定員になり次第、締切とさせていただきます。)





環境学習指導者をご紹介します！

H24年度「環境学習指導者バンク」に登録されている指導者の方から、活動を通して思うことなどをお寄せいただきました。

ミニ情報

みかんの皮のびっくりパワー

環境パートナー 木村 小夜子さん



山口きらら博の“インタープリンター”の文字にひかれ「いきいき・エコパーク」でお手伝いさせていただきました。テーマであった「いのちのつながり」にもとても関心がありました。人は他の命をもらわなければ生きていけません。命の源である食からエコクッキングに携わるようになり、買い物から後片づけまで、環境のことを考えながら皆さんと一緒に楽しく活動しています。例えば排水の仕方一つにしても、すべての命のつながりを頭の隅におくことで違ってくるのではないのでしょうか…？

私はと言えば、きらら博で譲り受けたミミズと今でも共働しながら生ごみを減らし、野菜づくりで楽しんでいます。



冬によく食べる果物のミカンですが食べておいしいだけではありません。

ミカンなどの柑橘系の皮には、ぶつぶつがあり、それは「油胞」と呼ばれ、中に油のようなものが入っています。その中に「リモネン」という液体成分が含まれています。

「リモネン」は発泡スチロールの溶剤としてリサイクルにも使用されています。加熱して溶かす従来の方式では、再生する際、原材料を混ぜる必要がありましたが、リモネン方式では100%再生材料だけで新品と同じものができます。加熱も不要なため従来の方式よりもCO2排出量を約30%節減できます。発泡スチロールは軽い割にかさばるので輸送効率を上げるため、回収場所で溶解・減容できる小型回収車も開発されています。

また「リモネン」には油を溶かす働きもあり、汚れ落としとして大変有効です。最近では家庭用の洗剤などにオレンジオイルとして配合されており、合成洗剤や漂白剤などと違って、天然成分であり、人体への影響が少ないのも利点です。



環境学習推進センターからのお知らせ！

環境学習会の新規指導者を募集します！

環境の保全に関する県民への理解と認識を深め、地域における実践活動の促進を図るため、環境学習指導者バンク制度を設け、登録された指導者を、地域におけるさまざまな環境学習会に派遣しています。

学習会・講演会における講師として、指導・助言をする

環境アドバイザー

【応募資格】

- 環境省の環境カウンセラーである者
- 環境に関する高度な専門知識と経験及び講演の実績を有する者(10年程度の指導経験者)

体験学習会、工作講座における指導者として活動する

環境パートナー

【応募資格】

- 環境学習会において、指導者として3年以上の活動経験を有する者

環境活動クラブ(こどもエコクラブ)の設立支援や活動の支援をする

こどもエコクラブ

アドバイザー

【応募資格】

- クラブのサポーターとして5年以上の経験者
- 現に環境パートナーである者

【応募方法】

登録申請書及び登録希望者活動経歴書に必要事項をご記入のうえ、郵送又はFAXにて提出ください。

(申請書の様式は、ホームページ「環境学習のひろば」にも掲載しています <http://eco.pref.yamaguchi.jp/learning/index.php>)

なお、申請は県内在住者に限り、アドバイザーとパートナーを重複して申請することはできません。

【募集期間】平成25年1月4日(金)～2月28日(木)当日消印有効

お問い合わせ・申し込みは、環境学習推進センターまで TEL:083-987-1110 FAX:083-987-1720

<編集後記> 秋のふれあいフェスタ、環境学習講座 etc...秋は行事がたくさんでめぐるしく毎日が過ぎていきました。最近、めっきり寒くなってきましたが、今年も冬の節電実践中です。今年はいろいろとお世話になり、ありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。(藤井)

発行元 (公財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)
TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720
URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

- P1 環境学習講座レポート
環境学習 講座案内
- P2 環境学習指導者紹介、ミニ情報
イベント案内



環境学習講演会を開催しました! 平成24年12月2日(日)

海と共に生きる ~震災復興と森は海の恋人運動~



平成24年12月2日(日)山口県セミナーパークにて、NPO法人森は海の恋人理事長の畠山重篤氏をお招きし、「海と共に生きる～震災復興と森は海の恋人運動～」と題してご講演いただきました。当日は210人の参加者となりました。以下講演要旨を掲載します。

◆森は海の恋人運動への取り組み

牡蠣の養殖が仕事で“良い牡蠣を作るためには海だけでなく山や川など地域の環境が大事である”ということに30年前に

気がつきました。「森は海の恋人」というスローガンを掲げて、平成元年から毎年植樹祭を行ない来年で25周年になります。

昭和40～50年代、海に赤潮の発生などで漁獲の減少と共に、漁師もだんだん減ってきました。残った漁師で「もう一度よい海を取り戻すにはどうしたら良いか。」を何度も話しあい、行政にも相談に行きました。

牡蠣は川の流れがある所でしか獲れない。だから森と川と海を一緒に考えないといけない。それを伝えるために苦肉の策で“漁師が山に木を植える”という活動を始めました。平成2年からは川の流域の子ども達を海に招き森と川と海の繋がり体験学習を行ない、参加した子ども達も1万人を超えました。子どもから親へ、そして地域全体へ森・川・海の繋がり意識が芽生え、環境保全型農業も進み、川の流域全体の環境が良くなりました。海を豊かにするには、山に木を植えたから川や海が良くなるのではなく、人達の心の中に木を植えることが重要なことなのです。そうした取り組みが功を奏して5年前から海はよくなりました。そして地元のわずか30kmの大川にも6万匹もの鮭が遡上するようになりました。

◆森と海をつなぐ鉄の役割

ロシアと中国の国境の近くには森林面積が日本の国土の5倍もあるアムール川があり、この一帯の森林で腐葉土が分解され、フミン酸とフルボ酸が残り、フミン酸が鉄を溶かし、フルボ酸が酸化しないよう保護し鉄(フルボ酸鉄)は川の流れに乗り、海に流れそれは三陸沖まで達し、植物プランクトンに鉄を提供します。

日本海や東シナ海では、中国の揚子江が関係しています。揚子江の中流に鉄の山の重慶がありますが三峡ダムが出来てからは河口の漁獲量が減少しました。ダムには砂や鉄(フルボ酸鉄)溜まっています。それを海に供給すれば海は豊かになります。水産行政はこれまで魚が獲れなくなると人工的に稚魚を放流していたが、それだけでは海は豊かになりません。

◆震災後の海への想い

三陸はもともと地震の多い所で、一生の間に2回は津波に遭遇する厳しい所です。今回、大津波の被害を受けながらも誰も海を恨む気持ちを持っていない。海に愛着を持っていて、今後も海辺で暮らすことを希望しています。



環境学習講演会のご案内

～地域からエネルギーの未来を創るために～

講師 崎田 裕子氏(ジャーナリスト・環境カウンセラー)

日時 平成25年2月3日(日) 13:30～15:00 開場 13:00

場所 山口県セミナーパーク 研修室103

定員 90人(先着順で定員になり次第、締切とさせていただきます。)

